

学位論文の要旨	
氏名	片野田優子
学位論文題目	戦後日本の国際交流と地域社会 —鹿児島県内自治体の地域間国際交流の事例を中心として—
<p>本論文は、国際交流の担い手と環境の相互作用によって生み出される内発的ダイナミズムについて、キーパーソン、中間的な団体や組織、エンパワーメントの連動性を動的構成要素として設定し、鹿児島県内市町村の地域間国際交流を事例として検証した。それらを踏まえ、グローバル化時代の地域政策に求められる国際交流の今日的意義を考察したものである。</p> <p>本論文の構成は以下の通りである。</p> <p>第1章「序論」では、本研究の目的と背景、用語の定義、先行研究の検討、研究方法、本論文の構成について記述した。先行研究については、戦後日本の国際関係研究論における地域間国際交流の位置づけを概観し、本研究の中心的な位置づけである自治体の地域間国際交流に関する研究を、大きく地域政策的アプローチと文化的アプローチに分け検討し、課題を抽出した。</p> <p>第2章「戦後日本の国際交流の歴史的背景」では、戦後日本の国際交流の展開を、国際社会への復帰、「国際化」政策の展開、「国際化」と「グローバル化」の3つに区分し、時代によって国際交流の概念枠組みが変化する過程を整理し考察した。</p> <p>第3章「地域社会における国際交流の展開」では、戦後日本の地域社会における国際交流の展開を、揺籃期、拡大期、隆盛期、多様化という4つに区分し、地域社会が国際化政策なかで国際交流をどのように受容し、交流活動が展開されてきたのか考察した。</p> <p>第4章「鹿児島県内自治体の国際交流」では、2009年と2015年に鹿児島県内全市町村を対象に、国際交流の実態を把握するために実施したアンケート調査の結果を素材にして、鹿児島県内自治体の国際交流の動向と特徴を論じた。</p>	

第5章「地域間国際交流におけるキーパーソンの役割」では、いちき串木野市とサリナス市（米国）との地域間国際交流を、戦後の北米移民の歴史的背景と交流活動の担い手の観点から分析し、特にキーパーソンの存在と役割の重要性について明らかにした。

第6章「地域間国際交流における女性のエンパワーメント」では、鹿児島県周辺部の過疎・高齢化が進行する農村地域の旧吹上町とマレーシアとの地域間国際交流を検討した。1982年に始まった「からいも交流」事業を源流としながら、マレーシアとの間で新しい国際交流の形態を生み出し、発展させている女性たちの役割に着目し、多様なキーパーソンの存在とエンパワーメントの関連性を考察した。

第7章「地域間国際交流における中間的な団体・組織の役割」では、鹿児島市とパース市（豪）との地域間国際交流を取り上げた。中心的な交流分野である教育・文化交流においてフォーマル、インフォーマルな役割を担い、媒介的機能を有する中間的な団体や組織の役割について考察した。

第8章「旧小規模自治体の地域間国際交流と市町村合併」では、市町村合併を機に交流が終了となった旧桜島町とリボン市（米国）、事実上の解消となった旧宮之城町と安吉県（中国）の事例を取り上げた。合併前後の連続性から、合併が地域間国際交流に与えた影響を具体的に検証し、活動の担い手の観点から考察した。

第9章「結論」では、鹿児島県内自治体の事例からみた地域間国際交流を総括した。継続性のある発展的な地域間国際交流の事例と、市町村合併を機に終了あるいは事実上の解消となった地域間国際交流の事例との比較検討から、国際交流の担い手と環境の相互作用によって生み出される内発的ダイナミズム現象のメカニズムを明らかにした。内発的ダイナミズムの動的構成要素として設定した、キーパーソン、中間的な団体や組織、エンパワーメントの観点から、いくつかのパターンの異なる地域間国際交流を検証することで国際交流における人の果たす役割の重要性がより鮮明になった。それらを踏まえ、藪野の「社会力の新しい創造」と毛受の「国際交流・協力活動は社会変革を目指すもの」という捉え方を援用し、「地域社会」と「国際社会」への貢献という概念枠組みで、グローバル化時代の地域社会における国際交流の今日的意義を提示した。